



「SDGs」の理念を、 市政の中に位置づけを

第5次総合振興計画に取り入れる

公明党 ^{みうら よしかず} 三浦 芳一 議員

議員 SDGs（持続可能な開発目標）、そして「誰も置き去りにしない」との理念を市政の中で位置づけを。

市長 令和3年度にスタートする第5次総合振興計画にSDGsの視点を取り入れ、基本計画において17のゴールと施策の関連性について明らかにしていく。

地元企業への発注・支援策は

議員 地元企業への発注・支援策について伺う。

市長 年度内の工事量の偏りを解消し、平準化を進める。また、債務負担行為の活用、速やかな繰り越し手続きの推進などを図る。

危機管理の強化は

議員 防災・減災対策など危機管理の強化について伺う。

市長 有事の際に適切な危機管理における初動態勢の構築と実効性を目的に、水害を想定した災害対策本部訓練、また、市民を対象に「一斉水害

避難訓練」を実施する。

福祉相談窓口はワンストップ型で

議員 福祉相談窓口は、ワンストップ型が望ましいが、いかがか。

市長 複合化した相談を適切な関係機関や制度、サービスにつないで切れ目ないフォローをしていく。

公園リニューアル計画は

議員 公園リニューアル計画は。



▲防災の視点や市民ニーズも踏まえた公園を

市内事業者の受注機会 拡大及び人材確保策は

優先的発注に努める

みらいの会 ^{くまき てるあき} 熊木 照明 議員

議員 本市がさらに発展するためには、市内経済の活性化が必要不可欠である。市内事業者に対し、特に公共工事の安定的な発注・施工の平準化をすることは、市内経済活性化の有効な手だてである。市内で初めて市内全事業者を対象としたニーズ調査をしたところであるが、企業の受注機会拡大や人材確保の支援策等を含めた環境づくりを、どのように進めていけるのか。

市長 公共工事等の受注契約

において、公正・公平を確保し、市内事業者への優先的発注に努める。工事量の偏りによる解消し平準化することによる、年間を通じた切れ目のない工事発注をすることで、経営安定化につなげていく。さらにニーズ調査の回答から、事業者の人材確保を強化するためのセミナーや個別相談会を実施し、経営力強化・発展へとつなげていく。

水害・震災に備えた取り組みは

議員 昨今の異常気象により、今後、短い周期での大規模台風が発生や、近い将来、首都直下地震の発生も予想される。災害に強いまちづくりは急務の課題であるが、災害に備え互いに助け合う共助、自分の安全は自分で守る自助が重要である。そこで、いかに市民の自助意識向上をさせるのか、市の取り組みについて伺う。

市長 水害・震災に備え総合



▲台風19号で被害を受けた彩湖・道満グリーンパーク



公園リニューアルや ボール広場の推進を

計画を策定し進めていく

戸田の会 ^{さかい いくろう} 酒井 郁郎 議員

議員 ボール遊びのできるスペースの要望が多い。また、市内160カ所の公園を管理しやすく効率的に運用することや、人気のある公園の事例を生かした特色ある公園づくりもお願いしたい。

市長 ボール遊びができる「青少年の広場」設置を検討する。市民ニーズを整理し、計画を策定する。

施設の建て替え、改修コスト抑制を

議員 一般会計予算は昨年度



▲4月に新設された新曽地区の「青少年の広場」

比79%増、一昨年度比18.1%増の急拡大となっている。施設改修に多額の費用がかかっているが。

市長 既存事業の見直し、市税の収納率向上、市内企業の活性化など財源確保に努める。

ICTへの思い切った投資を

議員 ICT環境の改善は、内部においては業務の効率化、利用者にとってはサービスの向上という、2つの面で重要。業務面では、テレワークの環

境整備、勤怠管理等の人事システム、ペーパーレス化などに改善の余地がある。サービス面では、手続きの煩雑さや分かりづらさの解消、窓口を訪れることなく手続きが完了する仕組みづくりが考えられる。

市長 勤怠管理システムを導入し、事務の効率化を図る。スマートフォンで申請手続きが簡単に行える仕組みを作り、利便性を向上する。



総括質問

そうかつしつもん

総括質問とは、新年度の施政方針に対する質問で、2人以上で構成する会派による代表制質問のことです。今定例会では、3月3日の本会議において、5人の議員が会派を代表して総括質問を行い、市長の施政方針に対して考えをただしました。

ここに掲げたのは、その質問・答弁の概要です。総括質問の原稿は、質問者本人が執筆しています。総括質問の様子は、議会ホームページからご覧いただけます。



▲新曽南の桜